

戦争の証

読谷小学校 六年一組

當眞

嗣陸

日記やうPON新聞を讀みました。リ
PON新聞には、76年前にあつた戦争のこ
とが書かれていました。ぼくは、改めて戦争
は絶対におきてほならなうと強く思いました。

渡邊次国民学校に習うのは戦争のことだけ
でした。その時の学校は、人を叩くことは良
いことだ、それがむきなりと一人前いかな
かたの事です。そんな時、誰か一人が悪いこと

をみると、先生がクラス全員を2人1組に向
き合わせて殴り合わせました。友だち同士で
白き合った時は、殴れなく、仕方なく弱く叩
くこと、そんな叩き方あるかと先生に殴られ
ました。その後は、お互い顔が真っ赤になる
まで殴り合ったと、書いてありました。

ぼくは、今もあるアメリカ軍の基地での、
トラハルについて調べました。基地がある事
は、大きな事件や事故も起きていました。た
とえば、65年6月11日、当時小学5年生だっ

た棚原隆子ちゃんが米軍のパラシュート降下
 訓練でトレーラーの下敷きとなって殺されま
 した。さらに米軍は上陸後に村全土を占領し
 ました。基地を造るために住民から強制的に
 奪った土地は村面積の95%に上ります。住民
 は古里を追われ、わすか5%の土地に寄り添
 うようにして暮らしを築いてきたのである。

基地さえなければ、奪われずに済んだ命や
 暮らしがあることが分かりました。

隆子ちゃんの事件を機に、住民をうは基地

はいらないと訴え、闘い続ける運動を展開し
 ました。しかし、それ以降も事件、事故は後
 を絶ちません。明年には楚辺集落に米軍ジエ
 ット機がフイ落しました。2009年11月に
 も楚辺で米兵によるひき逃げ死亡事件が発生
 しました。

中田さんは話します。「沖縄中で基地はい
 らないと叫んでも、沖縄県民は日本の人口の
 1%に過ぎません。残り99%の人たちが、関
 心を持って声を上げてくれたなら、沖縄も抱

える基地の問題をみんな考えてほしい
と言っていました。

ほくは、中田さんが言うように、沖縄戦で
は、軍国主義の間違った考え方によって、
多くの命がうばわれました。現代でも、誤っ
た情報を信じ込むのではなく、当たり前を疑
い、自分で物事を判断する力を身につけたい
です。